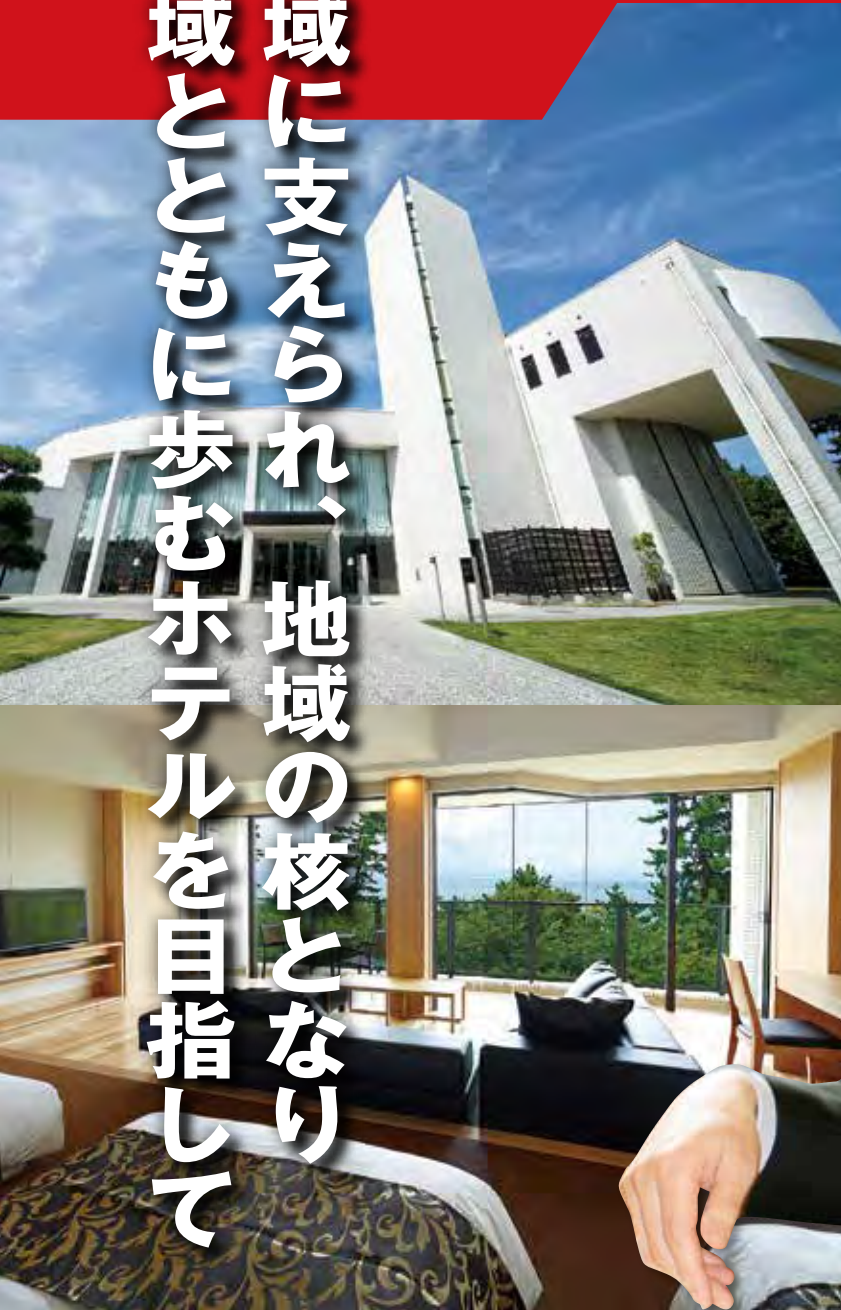


地域に支えられ、地域の核となり  
地域とともに歩むホテルを目指して



**ホテル営業停止の危機を乗り越え  
お客様に役立つホテルとして存続**

近江八幡駅前のシンボルともいえる「ホテルニューオウミ」は、今年、平成元年3月の開業から30年目を迎えて今、華やいた雰囲気の中、記念イベントが開催されています。

このホテルがかつては業績が悪化し経営に行き詰まり、平成14年に新会社が運営会社から営業権を買い取って、混乱の中で経営の立て直しを図り、現在に至っていることなど、外からはうかがい知ることができません。

ホテル存続の危機が訪れたその時、新会社を設立して代表となり、ホテルを継続して運営することになったのが、当時支配人として働いていた岩原 努社長でした。岩原社長は「予約をいただいているお客様もたくさんおられましたので、なんとかして営業を続けなくてはという

想いで代表を引き受けました。閉鎖も検討された中で、多大なご迷惑をおかけしたにもかかわらず、お客様や地域のみなさま、保証協会さんや銀行さん、ご協力企業さんにご支援いただくことができました。みなさまのお気持ちを1日たりとも忘れてはならないと思っています」と当時を振り返ります。

岩原社長の父 岩原 侑さんは、同じように経営に行き詰った近江兄弟社の再建にて指揮を執った再建社長としてよく知られている人物で、侑さんからの的確なアドバイスが、混乱と困難が重なる状況を乗り越えるための支えになりました。

そんな岩原社長が就任以来、変わらず持ち続けている理念は、「お客様に正確に役立つことでホテルとして存続していく」ということ。観光旅行やビジネス、プライダルや家族の記念日、法事など、さまざまな目的で利用されるお客様に的確なサービスを提供して、どのような目的で利用しても正確に役に立つ存在でありたいという気持ちで、日々